

平成 29 年 上富良野町議会第 4 回定例会

一般質問 質問事項一覧

届出順	氏 名	質 問 事 項
1	10 番 高松 克年	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 単独維持困難路線と言われる J R 富良野線のわが町における今後のあり方について</li> <li>2 わが町の社会福祉推進の要である民生委員・児童委員の活動のあり方等について</li> </ol>
2	13 番 村上 和子	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本ジオパーク新規認定に向けての今後の取り組みは</li> <li>2 元気高齢者づくりとボランティア活動に参加しやすい仕組みづくりを</li> </ol>
3	12 番 中瀬 実	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 町道の維持管理について</li> <li>2 ゴミ処理場等の水質検査について</li> <li>3 T P P 対策について町の基本的考えは</li> </ol>
4	11 番 米沢 義英	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 十勝岳ジオパーク認定の取り組みについて</li> <li>2 予約型乗合タクシーについて</li> <li>3 保育料の負担軽減について</li> <li>4 障がい者の就労支援事業について</li> <li>5 社会教育総合センタートイレの改修について</li> <li>6 スクールバスの運行について</li> </ol>
5	9 番 荒生 博一	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 十勝岳ジオパーク構想について</li> <li>2 人口減対策の具体的取り組みとその成果について</li> </ol>

一般質問通告書(平成 29 年 12 月定例会)

氏名・質問事項・答弁先	質 問 要 旨
<p><b>1 10番 高松 克年</b></p> <p>1 単独維持困難路線と言われる J R 富良野線のわが町における今後のあり方について (町 長)</p>	<p>(1) J R と沿線 5 市町の J R 富良野線連絡会議における協議内容と今後の町の取るべき対応について伺う。</p> <p>(2) J R 富良野線が交流人口、海外旅行者の入り込みについて果たしている役割、評価について伺う。</p> <p>(3) 地域の高齢化社会への移行と J R が果たす役割は期待すべきものがあるのではと思うが、町としては路線確保持続への方策は見出せないか伺う。</p>
<p>2 わが町の社会福祉推進の要である民生委員・児童委員の活動のあり方等について (町 長)</p>	<p>(1) 少子高齢化現象の中で、奉仕の精神で地域住民の相談に応じ支援を行い、社会福祉の推進に貢献する民生委員・児童委員の活動はますます重要になると考えるが、委員の活動意義について町長の見解を伺う。</p> <p>(2) 民生委員・児童委員の現在の選任方法はどのように、また、確保が困難で欠員が出る市町村があると聞くが、わが町の状況と選任方法について課題はないのか伺う。</p> <p>(3) 少子高齢化、子供の相対的貧困等、社会的に多様な問題が生じている状況の中で委員の数は十分と考えているか、町長の見解を伺う。</p> <p>(4) 委員の職務が多様化・複雑化し、活動の大幅な増加が見込まれるが、現状の活動費で十分と考えているか、町長の見解を伺う。</p>
<p><b>2 13番 村上 和子</b></p> <p>1 日本ジオパーク新規認定に向けての今後の取り組みは (町 長)</p>	<p>残念ながら認定見送りとなったが、認定に向けての今後の取り組みについてお伺いしたい。</p> <p>上富良野町は十勝岳ジオパーク構想のもと、美瑛町と 2 町で 2015 年 4 月に十勝岳山麓ジオパーク推進協議会設立後、地域おこし協力隊 2 名の方はもとより、担当課もありとあらゆる方法で、観光・行政・防災教育・住民会・各種団体などの出前講座・学習調査・研究・ネットワーク活動、ジオパーク構想を下に目標を作り、町民の多くが町の活性化のために理解を深めてきた。回数にすれば 234 回で、これだけの取り組みを本当によくやられたと思う反面、こういう結果になってしまったことは残念で仕方がないが、以前よりハードルが高くなっており、事務局が美瑛町・上富良野町の 2 つの町に置か</p>

	<p>れているため、ジオパークとしての計画が実施できる持続可能な運営体制になっていないということで、認定が見送られることになった。</p> <p>また、認定に何年もかかるという見方もあるが、美瑛町との温度差を感じており、今後については上富良野町だけでは不可能と思われるが、美瑛町とモチベーションを保ちながらやっていけるのか、来年度の予算付け方法等今までと違った活動によって認定にこぎつけることができるのか、今後の取り組みについてお伺いしたい。</p>
<p>2 元気高齢者づくりとボランティア活動に参加しやすい仕組みづくりを (町長)</p>	<p>第6次上富良野町総合計画策定のための町民アンケート調査によると、町の愛着度については、年齢別では70歳以上で8割(84.7%)を超えており、健康増進についても、取り組んでいる人は70歳以上で8割(81.3%)であるが、一方で地元公園のボランティア活動をしている人は70歳以上で約4割(37.5%)と低い数値になっている。</p> <p>北海道が今年度より開始した「赤れんが・地域応援シニアバンク」の目的は、人員・人材不足が懸念される市町村や地域の公共的・公益的団体の円滑な業務推進をサポートするため、幅広い行政分野において専門的な知識や経験・技能を有する道職員などの退職者にボランティアスタッフとして登録してもらい、市町村等の求めに応じて登録者を紹介する制度である。これを市町村に置き換えて、本町において導入するよう検討する考えはないか。</p>
<p><b>3 12番 中瀬 実</b> 1 町道の維持管理について (町長)</p>	<p>町道は1級・2級路線合わせて58路線、総延長415kmと承知しているが、町道維持管理について3点伺う。</p> <p>(1) デリネーターの取り扱いについて 現在、町道に設置されているデリネーターは本来の役目を果たしていないものが目立つが、撤去・修理の考えは。</p> <p>(2) 町道1級路線の草刈りを町で行うことができないか。</p> <p>(3) 町道の段差解消について 橋、工事跡の段差が町内各地で見られるが、修繕の目安はあるのか。</p>
<p>2 ゴミ処理場等の水質検査について (町長)</p>	<p>(1) 現在町で行っている水質検査は、東中地区とクリーンセンター内の2か所と承知しているが、その目的について伺う。</p> <p>(2) 今後、過去にゴミ処分場であったところの水質を毎年で</p>

	<p>なくても検査する考えはあるか。</p> <p>(3) 水質検査の結果報告は、どのような方法で周知されているか。</p>
<p>3 TPP対策について町の基本的考えは</p> <p>(町長)</p>	<p>米国抜きの11か国によるTPPの大筋合意がなされた。このことにより、食糧基地北海道、各町村、現場に不安が広がっている。わが町においても影響は多大であると思われる。</p> <p>(1) これらの影響を最小限にするため、農家の不安を解消するために町としてできる対策を想定しているか。</p> <p>(2) 国際競争に対処し、機械の作業効率を高めるためにも、農地の基盤整備がより強く求められると思う。今後どのような形で取り組むか、暗渠、区画整理、層圧調整等について伺う。</p>
<p>4 11番 米沢 義英</p> <p>1 十勝岳ジオパーク認定の取り組みについて</p> <p>(町長)</p>	<p>町においては、十勝岳ジオパーク認定に向け、十勝岳や丘陵などの地質遺産や地域資源を活用するプログラム構想の認定を目指し、専門員の配置をしながら事業の推進を図ってきたが、認定に至らなかった。理由として、事務局が2町に置かれていること、各専門部会などの協議会の活動も取り組みが始まったばかりで、持続的な運営体制になっていないなどの点が指摘された。審査内容の評価をどのように考え、今後の取り組みにどのように反映されようとしているのか伺いたい。</p>
<p>2 予約型乗合タクシーについて</p> <p>(町長)</p>	<p>6月議会では、祝祭日の運行、町内、郊外利用料金や買い物・通院時における時間設定の見直しと利用者アンケートの実施を求め質問をした。アンケート結果の公表と運行の改善策について、どのように検討しているのか伺いたい。</p>
<p>3 保育料の負担軽減について</p> <p>(町長)</p>	<p>北海道においては、今年度より少子化対策の事業として、子育て世帯の経済負担を軽減し、安心して子供を産み育てることができる環境づくりを目指し、第2子以降の3歳未満児を対象とした保育料を無償化する補助制度を設けた。6月の議会では、北海道の保育料を無償化する事業を活用し、子育ての支援を充実すべきだと求めた。この間、どのように検討されているのか伺いたい。</p>
<p>4 障がい者の就労支援事業について</p> <p>(町長)</p>	<p>障がい者の方が一般企業への就職が難しい状況も見受けられる。しかし、近頃では、障がい者の就労を支援する事業所も出てきている。例えば、障がいの度合いに応じ適性を見極め、介護施設での清掃や農作業をしながら収入を得て生活環</p>

	<p>境を変えることで、当事者の喜びにもつながる支援である。問題は、まだ障がい者を受け入れてくれる事業所などが少ないことである。障がい者の就労の機会を広げるためにも、町においては、現在事業所などに委託している清掃業務などの一部を就労事業所に委託することなどの検討と合わせて、支援体制のあり方を検討することが必要だと考えるが、対応について伺う。</p>
<p>5 社会教育総合センタートイレの改修について (教育長)</p>	<p>社会教育総合センタートイレの改修については、利用をしている人たちから和式トイレを洋式便座へと望む声が出ている。以前、この件について質問をした際、今後検討してみるとの答弁だったが、どのように検討されているのか伺う。</p>
<p>6 スクールバスの運行について (教育長)</p>	<p>保護者がスクールバスの乗車申請をしたところ、「2km以上の規定にわずかに届かないため乗車できない」と回答されたと聞いたが、規定に基づく対応は当然のことだと思うが、実態に基づく柔軟な対応を図ることも必要と考えるが、対応について伺う。</p>
<p><b>5 9番 荒生 博一</b> 1 十勝岳ジオパーク構想について (町 長)</p>	<p>今年度認定を目指していた、「日本ジオパーク新規認定」の審査結果において、残念ながら「十勝岳ジオパーク」の認定は見送られた。その後、11月7日付けで正式な審査結果報告がなされている。その結果を踏まえ、今後どのような考えで「十勝岳ジオパーク」の認定に向けた具体的な取り組みを進めるのか3点について町長に伺う。</p> <p>(1) 認定見送りになった結果について、町長はどのように受け止めているのか伺う。</p> <p>(2) 今回の審査結果報告の中で解決すべき課題としてあげられた、①ジオパーク推進協議会の体制の改善、②専門員も含め事務局体制の強化、③拠点施設及び案内板・解説板についての改善等、これら諸課題をどのように解決していくのか伺う。</p> <p>(3) ジオパーク活動をまちづくりの核として決め、認定に向けた活動をこの2年間で行い、多くの投資がなされてきた。今回の審査結果後、町から町民に対しての報告は、広報10月号で、ホームページ上では、11月28日に企画商工観光課ジオパーク推進室のページ上で認定結果報告を行っているだけで、理事者からのこれからの思いなどは一切発信されていない。多額の予算を必要とするからには、より多くの</p>

	<p>町民の方々の理解や協力を得なければならないと思うが、今後の取り組みに対する町長の考えを伺う。</p>
<p>2 人口減対策の具体的取り組みとその成果について</p>	<p>平成 31 年度までの 5 か年計画で策定された、かみふらのまち・ひと・しごと創生総合戦略では、人口減少問題の研究を行っている国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口は、2040 年には現在の 11,000 人から 8,000 人になるとの推計が示された。そのことを受け、町では 1 万人程度の確保を目指し、持続可能なまちづくりに向け、若者の人口流出を抑制するとともに、高齢者の安心な暮らしを支えながら、定住・交流人口の増加をはかっていくことを目標に掲げている。そこで、これまでの取り組みの成果について、3 点町長に伺う。</p> <p>(1) 上富良野町の良さを宣伝し、定住・移住を促進するための取り組みとして、現在の町のホームページをもっと見やすくなるよう工夫をする必要があると考えるが、町長の考えを伺う。</p> <p>(2) 交流人口の増に向けた観光振興策の取り組みについては、観光振興計画における観光客入込数の目標数値に対し、交流人口である宿泊・日帰り客の実際の数値は目標を大幅に下回っている。観光振興計画最終年度の平成 30 年度の 90 万人という目標数値達成に向け、どのような具体的取り組みを行うのか伺う。</p> <p>(3) 若者の人口流出の抑制や定住・移住の促進のためには、雇用の場・働く場所の確保は何よりも優先されなければならない。今後、どのように取り組みを進め、効果があったのか伺う。</p>